



NO. 608
 発行
 2007・7月31日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者
 守橋久仁雄
 編集責任者
 教宣部

勝山さん 23日赴任

新鶴見
 機関区へ
 強制転勤
 させられ
 た勝山さ
 んが、七
 月十三日
 事前通知
 二〇日に
 発令、二

十三日赴任で、東新潟機関区へ戻りました。
 この間、本部（貨物本社（支社）エリア本部）で、二年以内が限度が三回も、反故にされて来ました。
 会社に対する思いは、語り尽くす事ができない怒りを、分会の仲間や新鶴見機関区分会の仲間も共通の認識で抱き、今日に到りました。

一人はみんなの、みんなは一人のために

なのみんなは一人のためにの原則を守り職場で今後も頑張りましょう！
 本当にありがとうございました。

国労東新潟機関区分会
 陸 分会執行委員長

七月の日程

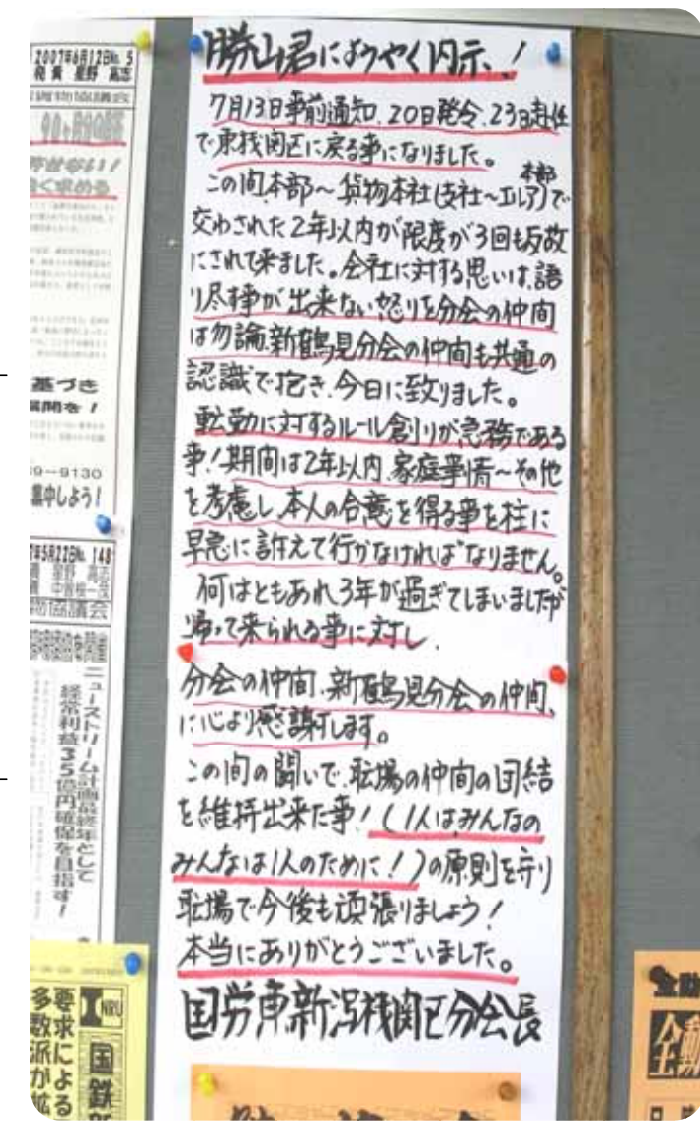
- 7/11 第1回 国労裁判
- 7/17 浦和事件 判決
- 7/18 貨物分会代表者会議
- 7/25 全動労裁判 結審
- 7/29 参院選 投票日
- 8/2~3 全国大会
- 8/31~9/1 第21回東日本定期大会
- 9/29(土) 第59回地本定期大会
10時~新潟会館



本人の合意を

転勤に対するルール創りが急務である事、期間は一年以内、家庭の事情、その他を考慮し、本人の合意を得る事を柱に早急に訴えて行かなければなりません。

何はともあれ三年が過ぎてしまいました。が帰って来られることに対し、分会の仲間、新鶴見機関区分会の仲間、心から感謝します。
 この間、職場の仲間の団結を維持できた事（一人はみんな





現地・こういゆう

第十五回函館激励行動 七月九日～七月十日

新潟地本 加藤副委員長

全体で八名参加

初夏を迎えた七月に入り、恒例になった函館闘争団激励行動が七月九日～十日にかけて行われました。

今回の参加者は、魚沼共闘会議から井口議長をはじめ、江口事務局長、及び横山さんが参加。そして国労新潟地本からは、加藤副委員長、石川執行委員さらには、地本、渡部書記が参加しました。

新潟支部の石田副会長と OOB の石川さんが参加し、全体で八名の体制で函館へ向かいました。

秋元宅へ それぞれの思い報告

九日一時二十八分・JR・新津発『日本海一号』にて出発し、途中青森で乗り換えながら十一時頃、函館に到着しました。

迎えには、函館闘争団・池田事務局長、坂野団員から、来ていただきさっそく車にて秋元宅へ移動しました。

十二時頃に秋元宅に着き、奥さんや長男一家、そして娘さんが元気な姿で迎えてくれました。亡き秋元氏の遺影に祈り、それぞれ思いを報告しその後、近くに眠っているお墓へ向かい改めて報告しました。



作業所を見学

秋元宅を後にして、次に向かった所は、闘争団の皆さんが日頃かかわっている場



を見学することになり最初に向かった所は、ヘルパーステーション『あかね』という事務所を訪ねました。

続いて、工房『虹と夢』という作業所を訪ねました。そこは、障害をもった人達の利用を中心に、出会いや交流の場として広く活動がされています。社会的にも今後、期待される事務所です。闘争団の人達の活躍を期待しています。

十八時からは、いよいよ闘争団の人達との交流です。そこには久しぶりに会う人、よく会う人というメン

和やかな 交流会

バーですが元気良く対応してくれました。

交流会では、闘争団・西村団長の歓迎あいさつ、そして交流団・井口団長のあいさつがそれぞれ行われ暖かい、和やかな交流会が行われました。

最後に、それぞれの立場を確認しながら一日も早い解決に向けて、お互いの場で全力をあげてがんばろうと、会を閉めました。

十日の午前中は、函館の朝市に入り新潟への土産物探しで忙しく動き回りました。闘争団の皆さんの見送りを受けながら十一時二十八分JR函館発で新潟へ出発しました。

しかし途中、青森から秋田へ向か



う際に沿線火災のため信号トラブルがあり東能代から秋田までバス代行というアクシデントがありました。秋田から新潟へ向かう列車が無く秋田から大宮経由で新幹線にて新潟へ向かうことになりました。新潟に

ひとつの思い出た

着いたのは深夜となりました。特に魚沼共闘会議の皆さんは、家に着くと午前二時を経過することで本当にづらい帰路となりました。

ひとつの思い出となる函館闘争団現地交流となりました。最後になりますが改めて、函館闘争団の皆さんはじめ秋元さん一家に心から感謝を申し上げます。

組合員の皆さんからカンパを頂きました。ありがとうございました。

『中越沖地震』により
被害を受けられた組合員の皆さんに、心よりお見舞い申し上げます。

1日も早い復興を
